

加藤恭子ゼミナール登竜門企画～二十歳のころ～

日本一の大学

11

日本一の人脈

D 班 谷口 二宮 森田

《はじめに》

私たちがこの課題に取り組むにあたり、まずどのような方にインタビューをさせていただきたいか。と話し合った時、世間では独立し、自ら設立した会社で成功した人は力があるとされていますが、それをふまえた上で、オーナー社長にしかない苦労や強みを知りたいと考えました。そして日大のシラバスを作ってくださっている会社を調べたところ、その会社は現在三代目になる社長が経営しており、印刷会社にも関わらず LED 事業でも成功し、更に調べさせていただくと、代々の社長が日本大学卒業ということで、私たちの心は一気に惹き付けられました。そしていきなりの電話にもこころよく応じてくださり、私たちは**葵コーポレーション株式会社の江崎泰元社長**に2月8日、お話を伺いました。

《会社紹介》

- ・葵コーポレーション株式会社
- ・昭和28年8月 **葵印刷工業株式会社**として設立
- ・平成15年4月 社名を**葵コーポレーション株式会社**に改名
- ・平成19年8月 LED 事業開始

今では、日本大学各学部、第一屋製パン、大塚製薬株式会社など、たくさんの得意先があり、CMでもおなじみの製品、SOYJOYが販売される自販機に葵コーポレーションが開発したLEDが使用されています。

《社長紹介》～葵コーポレーション株式会社 三代目代表取締役 江崎泰元社長～

直接お話を伺うまでは、江崎社長も高校卒業後、日本大学に入学されたと思っていました。しかし江崎社長ははじめ、4年制の他大学に入学しました。その後、葵印刷株式会社に入社しました。そして仕事をしながら、通信の日本大学経済学部に入学されました。

そして今では、先代から続くお得意様や、日本大学各学部に心を込めた印刷物を提供し、新たな LED 事業も成功された、バイタリティ溢れる社長です。

《インタビュー内容紹介》

私たちはまず、二十歳のころについてお伺いしました。はじめに入学された4年制の大学では、ゴルフ部に所属し、部活動に励んでいました。将来は親の会社を継ぐだろうと思いつつも、広告関係の仕事がしたいとも思っていたそうです。そして葵印刷工業株式会社に入社してから、いずれは自分が社長になることも念頭に置いた上で、仕事をする際に先代や二代目社長の持つ日本大学の人脈の大切さと必要性を実感し、仕事をされながら通信の日本大学経済学部に通ったそうです。そこでは、以前の大学生活とは違い、とにかく勉強に励まれたそうです。

大学時代の後悔についてお伺いすると、大学の規模と環境では少々難しいことかもしれないが、先輩や後輩、同学年の友人はもちろん、人生の大先輩である教授ともっと良い人間関係を築いておけばよかった。とおっしゃっていました。

《考察・感想》

まず、率直に驚いたことはこの題名の通り、日本大学の人脈の広さと大切さです。私たちはお話を伺うまで、大学名は就職活動のときに少し有利になったり、もしくは卒業してしまえば全く関係のないことだと思っていた。しかし、お話を伺ってみると、社会には想像以上に日本大学の卒業者がたくさん活躍し、そしてその方たちは「日本大学卒」ということにとっても誇りをもっており、帰属意識が強いと感じました。

また、社長は現在 LED 事業を成功されましたが、これは社長が学生時代には想像もしていなかった最先端技術を使用した製品です。私たちが世の中を引っ張っていく年齢になった時、現在の LED に値するものが何になるのか。それはまだわかりませんが、社長のようにならぬ事業にも挑戦できるだけの豊富な知識と柔軟な頭脳をこれからの大学生活で身につけたいと思いました。

そして、社長がおっしゃった言葉で一番心に残ったものは、**社長と部下の考えることは、真反対と断言しているほど違う。**という言葉です。同じ目標に向かっている者同士のはずなのに、上に立つものと、ついていくものの考えはこれほどにも違うと断言します。しかしこれは、会社の中だけではなく、私たちの部活動や、ゼミ活動などあらゆる集団すべてに言えることなのではないでしょうか。このような問題を解決するために、社長は家族に親族に話を聞いてもらい、背中を押してもらったり、時には軌道修正もしてもらおうとおっしゃっていました。また、三代目というプレッシャーは並大抵ではなく、周りからの過度な期待や、なにか失敗すると異常なほどまでの冷たい視線や声もあったそうです。周りの声をしっかりと聞き、受け入れることも大切だが、一番大切なことは、自分が正しいと思ったことを信じ続けることだとおっしゃっていました。これこそが、私たちが当初知りたかつ

た、三代目という苦勞や強みだと考えます。

《最後に》

私たちの発表は他のどの班よりも課題が多く残りました。しかし、春休み中みんなで予定を合わせて、学校で慣れないパソコンに向かい、努力した成果は出すことができました。この発表で、得たことも他のどの班よりも一番多いと私たちは実感しています。このメンバーで初めての課題に取り組めたことをうれしく思います。そして、一番悔しい思いをしたことを忘れず、これからのゼミ活動で必ず生かしていきます。

私たちのまだまだ未熟な発表に、真剣に耳を傾け、うなずきながら聞いてくださった加藤先生をはじめ、中村先輩、3年生の先輩方には感謝の気持ちでいっぱいです。

そしてなにより、お忙しい中、私たちの質問に丁寧にこころよく応えてくださり、実際にたくさんの記事や冊子をくださった葵コーポレーションの江崎泰元社長。交友会や両親に感謝するんだよ。と優しくお話ししてくださった江崎龍右会長。他のどんな大手の企業に行っても決してわからない日本大学の様々なお話や、温かい雰囲気の中でお話を伺えたこと、心より御礼申し上げます。